

廃材を再利用した燃料

# 木質ペレット製造開始

## 宍粟の会社 県内で2番目

製材所で出るおがくすなどの廃材を再利用した燃料「木質ペレット」の製造が25日、宍粟市一宮町安積の「兵庫炭化工業」で始まった。製造は県内2番目。同市は、木質ペレットを使ったボイラーやストーブの普及に力を入れ、公共施設や一般家庭に広まりつつある。4月ごろ販売開始する。

これまで、おがくすをペレット製造機を購入、生産した炭の生産をしてきた同社は、今回、国と市の補助を受け、木質ペレット製造機を購入、生産に乗り出した。近隣の製材所で出る端材を集めて裁断。製造機で乾燥、

圧縮させて数センチのペレットにする。

生産を開始した同日、同社は市職員や製材所関係者13人を招き、工程を披露。「エコが求められる今、販売に向け、需要を掘り起こしていきたい」と語った。

(安田英樹)

木質ペレットは、本来捨てられる木くずを再利用するだけでなく、燃やして発生する二酸化炭素が成長過程で吸収したものとみなされるため、大気中の増減に影響を与えない。



生産が開始された木質ペレット―宍粟市一宮町安積